

エコアクション21

環境経営レポート

2024年度
(2024年4月～2025年3月)



資源の有効活用と環境保全を両立させ、
地球にやさしい工場をめざします

作成 2025年 7月 31日

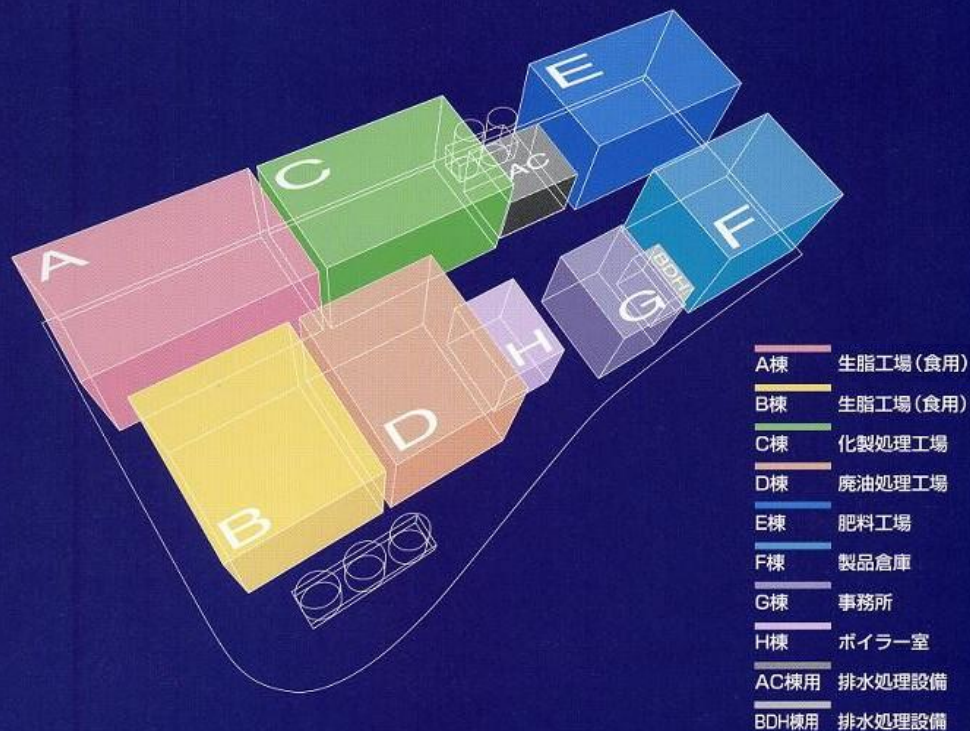


東京レンジリング協同組合

目次

| | |
|--------------------------|----|
| 1. 環境経営方針 | 1 |
| 2. 事業概要 | 2 |
| 3. 環境経営目標 | 7 |
| 4. 主要な環境経営活動計画の内容 | 8 |
| 5. 環境経営の取組結果の実績と評価 | 9 |
| 6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無 | 13 |
| 7. 食品廃棄物等の発生量及び実績値に関する内訳 | 13 |
| 8. 代表者による全体評価と見直しの結果 | 14 |

大切な自然の循環を守る、東京レンダリング協同組合。



環境経営方針

東京レンダリング協同組合は、地球にやさしい工場（エコ・ファクトリー）をモットーに廃食用油等の副産物資源の有効活用と環境保全を両立させ、『静脈産業』の担い手として、循環型社会の形成と地域の発展に寄与していきます。

1. 関連法規を遵守し環境保全に努めます。また当組合が同意するその他の要求事項を遵守します。
2. 省エネルギーによるCO₂の削減、節水、水の効率的利用に取り組み、地球環境に負荷のかからないよう努め、資源を節約します。
3. Recycle(リサイクル)、Reduce(リデュース)、Reuse(リユース)の3Rに取り組みことで廃棄物を削減します。
4. 外食産業等より排出される廃食用油のリサイクル量を増大させ、循環社会の形成に貢献します。
5. 食品循環資源の再生利用等を推進します。
6. 化学物質の使用量を削減します。
7. 職員全員で環境問題に取り組めるよう環境教育を推進します。
8. この環境経営方針は、職員全員が周知すると共に外部に公表します。
9. 毎年、環境活動レポートを取りまとめ公表します。

2008年 4月 1日 制定

2018年 5月12日 改正

東京レンダリング協同組合
代表理事 徳田 昌彦

2. 事業概要

2.1 事業所概要

事業所名： 東京レンダリング協同組合

所在地： 東京都墨田区東墨田1丁目9番1号(本社・工場)
 静岡県榛原郡吉田町神戸4231番1(静岡支店)
 長野県佐久市北川字原525番地39(長野支店)

代表者名： 代表理事 徳田昌彦

環境管理責任者： 徳田勇平

連絡先： 03(3619)5516

設立： 平成 6年 10月 31日

出資金： 4,300万円

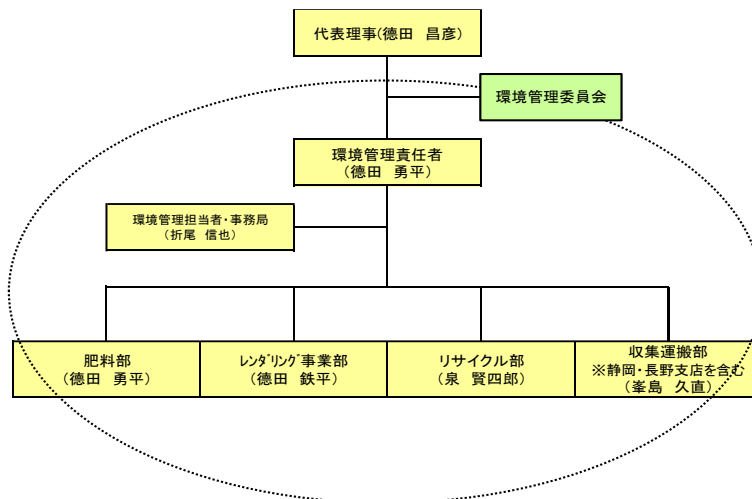
売上高： 273,098万円 (2024年度)

事業概要： 産業廃棄物の収集運搬・処分(中間処理)・廃油等の回収、
(認証・登録範囲) 油脂・肥飼料製造・販売

敷地面積： 4,959.32㎡

従業員数： 95名 (2025年3月31日現在)

2.2 組織構成および実施体制



| | 役割及び権限 |
|---------|--|
| 代表理事 | <ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針を策定する EA21の実行に必要な資源を用意する 環境管理責任者を任命する EA21の全体的な取り組み状況を評価し、見直し、必要な指示を行う 経営における課題とチャンスを明確にする |
| 環境管理責任者 | <ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムを構築し維持する 環境経営システムの構築、運用状況を代表に報告する 環境経営レポートを取りまとめる 環境管理委員会を開催する 環境に関し代表に上申する |
| 環境管理委員会 | <ul style="list-style-type: none"> 原則として四半期に1回開催し、実施状況の確認と必要な措置を検討する 全体的な見直しのために必要なデータを集計する |
| 部門リーダー | <ul style="list-style-type: none"> 自部門の環境教育を推進する 自部門の環境経営活動計画の具体的な取り組み内容を実践し推進する |
| 一般職員 | <ul style="list-style-type: none"> 環境活動方針及び環境経営活動計画を理解し参加する |

2.3 業務概要

<産業廃棄物処分業許可>

許可番号 第13-20-031750号(東京都)

① 事業の範囲

(1) 業の区分：中間処理

(2) 中間処理の方法と処分する産業廃棄物の種類

加熱脱水・遠心分離

汚泥(油脂回収できるものに限る)、廃油(油脂回収できるものに限る)、
動植物性残さ、動物系固形不要物、動物の死体(油脂回収できるものに限る)
(以上5種類)

② 事業の用に供する施設

| 施設種類 | 産業廃棄物の種類 | 単独処理能力 | 混合処理能力 | 設置年月日 |
|-----------|---------------------|-----------|-----------|----------|
| 加熱脱水・遠心分離 | 廃油(油脂回収できるものに限る) | 83.0(T/日) | 80.4(T/日) | 平成7年3月6日 |
| | 汚泥(油脂回収できるものに限る) | 20.0(T/日) | | |
| | 動植物性残さ | 20.0(T/日) | | |
| 加熱脱水・遠心分離 | 動植物性残さ | 25.0(T/日) | ----- | 平成7年3月6日 |
| | 動物系固形不要物 | 25.0(T/日) | | |
| | 動物の死体(油脂回収できるものに限る) | 25.0(T/日) | | |

③ 許可の年月日 令和3年3月8日

④ 許可の有効年月日 令和8年3月7日

<廃棄物再生事業者登録>

① 事業内容 廃油の再生事業

② 登録番号 第135号

③ 登録年月日 平成9年12月12日

<産廃エキスパート>

① 認定 第1種評価基準適合業者

② 業の区分 中間処理

③ 認定番号 6-23-C0048

④ 有効期限 2027年3月31日

<その他>

肥料関係 肥料の品質の確保等に関する法律に基づく各種登録・届出

飼料関係 飼料製造業者届

食用油脂 営業許可書(食用油脂製造業)

<産業廃棄物収集運搬業許可>

① 事業の範囲

(1) 業の区分 収集運搬(保管・積替えを含む) ※保管・積替えは東京都・静岡県・長野県のみ

(2) 産業廃棄物の種類 汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、動植物性残さ、(動物系固形不要物)、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず

| 都道府県及び政令指定都市 | 許可番号 | 許可の年月日 | 許可の有効期限 |
|--------------|-----------------|------------|-------------|
| 東京都 | 第13-10-031750号 | 令和3年2月23日 | 令和8年2月22日 |
| 千葉県 | 第012-00-031750号 | 令和6年1月29日 | 令和11年1月28日 |
| 神奈川県 | 第014-01-031750号 | 令和6年2月21日 | 令和10年12月25日 |
| 埼玉県 | 第011-02-031750号 | 令和6年1月22日 | 令和11年1月4日 |
| 栃木県 | 第009-00-031750号 | 令和6年2月19日 | 令和11年2月18日 |
| 群馬県 | 第010-00-031750号 | 令和6年1月9日 | 令和11年1月8日 |
| 茨城県 | 第008-01-031750号 | 令和6年2月28日 | 令和11年2月12日 |
| 長野県 | 第20-09-031750号 | 令和5年12月18日 | 令和10年12月17日 |
| 山梨県 | 第019-00-031750号 | 令和6年1月26日 | 令和11年1月25日 |
| 静岡県 | 第022-12-031750号 | 令和6年2月4日 | 令和11年2月3日 |
| 山形県 | 第06-09-031750号 | 令和3年11月29日 | 令和8年11月28日 |
| 宮城県 | 第04-00-031750号 | 令和4年5月2日 | 令和9年5月1日 |
| 福島県 | 第07-07-031750号 | 令和3年11月25日 | 令和8年11月5日 |
| 新潟県 | 第15-09-031750号 | 令和4年1月21日 | 令和8年12月10日 |
| 秋田県 | 第005-06-031750号 | 令和3年8月4日 | 令和8年8月3日 |
| 青森県 | 第002-01-031750号 | 令和3年8月4日 | 令和8年8月3日 |
| 岩手県 | 第003-00-031750号 | 令和3年8月1日 | 令和8年7月31日 |

(3) 積替え保管できる産業廃棄物の種類 下記の通り

②-1 積替え保管施設(東京都) 積替え保管面積:4,959.32㎡ 最大保管高さ:1.70m

| 産業廃棄物の種類 | 保管量 | 産業廃棄物の種類 | 保管量 |
|------------------|------------------|--|-----------------|
| 汚泥(油脂回収できるものを除く) | 一斗缶288個:5.68㎡ | ガラス・コンクリート・陶磁器くず | ペール缶:24個:0.432㎡ |
| 廃酸 | 一斗缶48個:0.948㎡ | 汚泥、廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず(廃蛍光灯に限る) | かご車1個:1.13㎡ |
| 廃アルカリ | 一斗缶48個:0.948㎡ | | |
| 廃プラスチック類 | フレコンバック1個:0.970㎡ | | |
| 金属くず | かご車1個:1.13㎡ | 汚泥、金属くず(廃乾電池に限る) | ペール缶:24個:0.432㎡ |
| | | 保管量合計 | 11.67㎡ |

②-2 積替え保管施設(静岡県) 静岡県榛原郡吉田町神戸4231番1

| 産業廃棄物の種類 | 面積 | 保管上限 | 積み上げることができる高さ |
|-------------------------|--------|--------|---------------|
| 廃油(自社の中間処理施設で処理するものに限る) | 10.98㎡ | 26.36㎡ | 2.40m |

②-3 積替え保管施設(長野県) 長野県佐久市北川字原525番地39

| 産業廃棄物の種類 | 保管制限等 | 産業廃棄物の種類 | 保管制限等 |
|------------------------------|--|--|--|
| 汚泥/廃酸/廃アルカリ | 各種類ごと 面積:1.150㎡ 保管上限:1.129㎡ 高さ上限:1.7m | 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くずの混合物(水銀使用製品産業廃棄物を含む。) | 面積:1.150㎡ 保管上限:1.129㎡ 高さ上限:1.7m |
| 廃プラスチック類/動植物性残さ | | | |
| 金属くず | | | |
| ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず | | | |
| 汚泥、金属くずの混合物(水銀使用製品産業廃棄物を含む。) | | 廃油 | 面積:12.375㎡ 保管上限:11.372㎡ 高さ上限:1.33m |

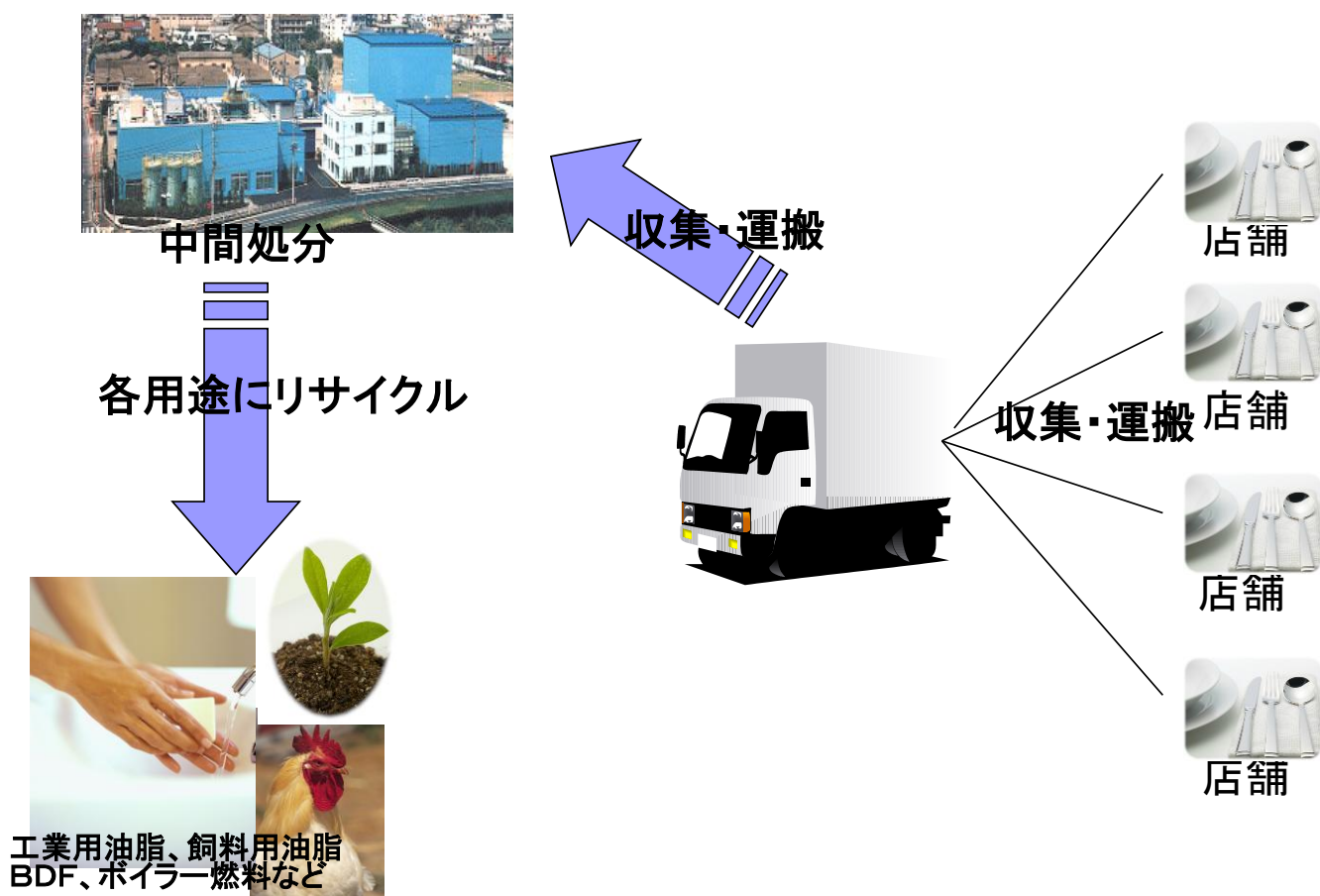
③ 車両保有台数 57台 (平ボディ45台・パン9台・塵芥車1台・ダンプ1台・ステーションワゴン1台)

<産廃エキスパート>

- ① 認定 第1種評価基準適合業者
- ② 業の区分 収集運搬業(積替え保管を含む)
- ③ 認定番号 6-23-B0084
- ④ 有効期限 2027年3月31日



< 廃油回収フロー >



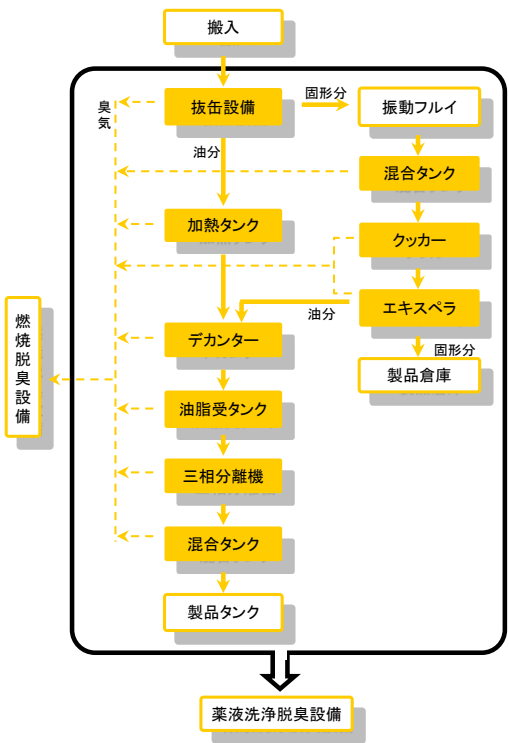
廃棄物処理料金： 種類、数量に応じてお見積りいたします。

中間処理実績： 12,547 t (2024年度実績)

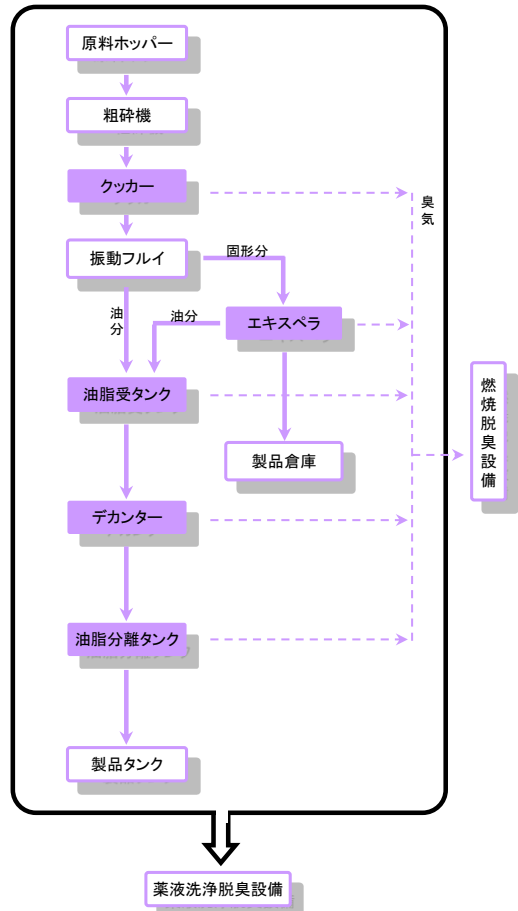
収集運搬実績： 13,674 t (2024年度実績)

<処理・製造フロー>

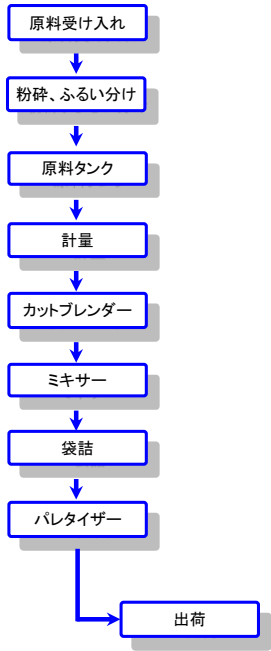
廃食用油処理設備



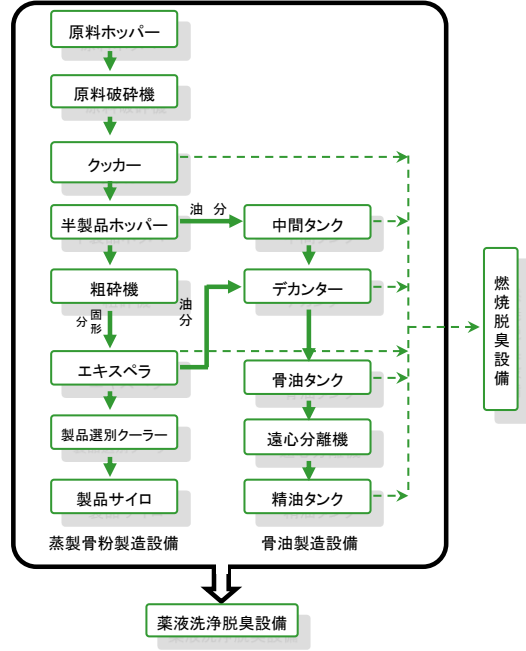
食用油脂製造設備



肥料製造設備



蒸製骨粉製造設備



3. 環境経営目標

・事業場部門

| 項目 | 環境経営目標 | 単位 | 2020年度 基準値 | 目標値 (%) | 2024年度 目標値 |
|--------------------|-----------------------|-----------------------|---------------|------------|---------------|
| 二酸化炭素 排出量 削減 | ・都市ガス使用量 | Nm ³ /t | 10.9 | -10% | 9.81 |
| | ・電力使用量 | kWh/t | 32.7 | 0% | 32.70 |
| | ・軽油等荷役機械燃料 使用量 | ℓ/t | 0.556 | -0.5% | 0.553 |
| | ・CO ₂ 排出量 | kg-CO ₂ /t | 38.9 | -2% | 38.10 |
| 水質源の 投入量削減 | ・水の使用量 | m ³ /t | 1.01 | -20% | 0.81 |
| 廃棄物 排出量削減 | ・廃棄物排出量及び 最終処分量 | kg/t | 3.02 | -5% | 2.87 |
| リサイクル量 の増大 | ・廃食用油再資源化量 | t | 12,341 | +1% | 12,464 |
| 食品廃棄物 の再生利用等 | ・食品循環資源の 再生利用等の実施率 | % | 100 | — | 100% |
| 化学物質 使用量削減 | ・化学物質の使用量 | kg/t | 0.0152 | -1% | 0.0150 |

① 基準値は、2020年度の目標値とする。(CO₂排出係数を2019年度数値、電気:0.442kg-CO₂/kWh、ガス:0.0509kg-CO₂/MJで再計算)

※ 電気は東京電力、ガスは東京ガスを使用しています。

② 目標値は基準値に対するパーセンテージとする。

③ 廃食用油リサイクル量の単位は、総量実績。その他の項目は、原単位[総量実績/(総物質投入量+中間処理量)]とする。

※ 2020年度・原単位分母は、28,818tです。

④ 電気使用量・軽油等荷役機械燃料使用量・廃食用油再資源化量の基準値は、2023年度の実績値とする。

※ 2023年度・原単位分母は、27,657tです。

・収集運搬部門

| 項目 | 環境経営目標 | 単位 | 2020年度 基準値 | 目標値 (%) | 2024年度 目標値 |
|----------------|----------------------|-----------------------|---------------|------------|---------------|
| 二酸化炭素 排出量削減 | ・軽油、ガソリン自動車 燃料使用量 | ℓ/t | 17.94 | -14% | 15.43 |
| | ・CO ₂ 排出量 | kg-CO ₂ /t | 46.9 | -14% | 40.33 |

① 基準値は、2020年度の実績値とする。

② 目標値は基準値に対するパーセンテージとする。

③ 二酸化炭素排出削減の単位は、原単位(総量実績/収集運搬量)とする。

※ 2020年度・原単位分母は、18,354tです。

・全社目標

| 項目 | 環境経営目標 | 単位 | 2020年度 基準値 | 目標値 (%) | 2024年度 目標値 |
|-------------------------------|----------------------|--------------------|---------------|------------|---------------|
| 二酸化炭素 排出量削減 | ・CO ₂ 排出量 | kg-CO ₂ | 1,935,675 | -3.0% | 1,877,604 |
| 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境配慮 | ・マニフェスト伝票の電子化率 | % | 60 | — | 60% |

① 基準値は、2020年度の実績値とする。(CO₂排出係数を2019年度数値、電気:0.442kg-CO₂/kWh、ガス:0.0509kg-CO₂/MJで再計算)

※ 電気は東京電力、ガスは東京ガスを使用しています。

② 目標値は基準値に対するパーセンテージとする。

③ 二酸化炭素排出削減の単位は、総量実績値とする。

④ 伝票の電子化率は、パーセンテージとする。

4. 主要な環境経営活動計画の内容

(対象期間: 2024年4月1日～2025年3月31日)

・事業場部門

| 環境経営目標 | 具体的な行動計画 |
|------------------------|---|
| 都市ガス使用量の削減 | ・ボイラー施設のメンテナンス(特に水質管理)を定期的を実施しロスのないようにする〈通年計画〉 |
| 電力使用量の削減 | ・機械設備のメンテナンスを定期的を実施し、運転時間のロスのないようにする〈通年計画〉 |
| | ・照明は、休憩時・不在時は消灯する〈通年計画〉 |
| | ・電気器具の更新時、省エネタイプとする(工場内照明は可能な限りLEDに変更する) |
| | ・事務所内の空調温度設定(冷房:26℃、暖房:21℃)〈通年計画〉 |
| | ・デマンド計にて消費電力を把握する(電気契約の見直し)〈通年計画〉 |
| | ・自家発電設備(ガスエンジン)の確実な運用 |
| 軽油等荷役機械燃料使用量の削減 | ・BDF燃料の活用 ・ハイブリット車の導入を検討 ・エコドライブの推進(アイドリングストップ・急発進、急加速禁止)〈通年計画〉 |
| CO ₂ 排出量の削減 | ・上記により |
| | ・ユーティリティー設備(ボイラー・脱臭設備等)の確実な運用 |
| 水の使用量の削減 | ・機械設備のメンテナンスにより、漏水等ない様に努める〈通年計画〉 |
| | ・排水処理施設を効率よく運転し再生水を作り、使用水を削減する〈通年計画〉 |
| | ・流し台・トイレ等では、水をこまめに止める〈通年計画〉 |
| | ・給水・節水設備の確実な運用 |
| 廃棄物排出量及び最終処分量の削減 | ・コピー用紙の両面使用〈通年計画〉 |
| | ・会議のペーパーレス化〈通年計画〉 |
| | ・不要FAXを印字しない〈通年計画〉 |
| | ・物品購入時の包装の削減〈通年計画〉 |
| | ・物品購入時は極力グリーン購入品を選定する〈通年計画〉 |
| 廃食用油再資源化量の増大 | ・ゴミを分別しリサイクルを推進する〈通年計画〉 |
| | ・汚泥の処分について、再資源化ができる処分先への搬入を継続する。〈通年計画〉 |
| | ・施設公開や排出事業者へのリサイクル提案により取扱量を増大させる〈通年計画〉 |
| 食品循環資源等の再生利用等実施率の向上 | ・肥料、ペットフード原料の品質向上。販売経路の促進〈通年計画〉 |
| 化学物質使用量の削減 | ・苛性ソーダの使用の徹底〈通年計画〉 |

・収集運搬部門

| 環境目標 | 行動計画(具体的取組) |
|------------------------|--|
| 軽油、ガソリン自動車燃料使用量の削減 | ・エコドライブの推進(アイドリングストップ・急発進、急加速禁止)〈通年計画〉 ・ドライブレコーダーの検証〈通年計画〉 ・走行日報による燃費確認〈通年計画〉 ・効率的走行ルートの見直し〈通年計画〉 |
| CO ₂ 排出量の削減 | ・BDF燃料の活用 ・低燃費・低公害車の導入 |

・全社目標

| 環境目標 | 行動計画(具体的取組) |
|----------------------------|---|
| CO ₂ 排出量の削減(総量) | ・上記行動計画により削減を目指す |
| マニフェスト伝票の電子化率増大 | ・排出事業者への提案により電子マニフェストの使用率を高める〈通年計画〉 ・ハンディ端末による運行管理システム(自社ASPマニフェストシステム)の運用 |

5. 環境経営の取組結果の実績と評価

5.1 環境経営の取組結果(数値実績)

・ 事業場部門

| 項目 | 環境経営目標 | 単位 | 2020年度 基準値 | 目標値 (%) | 2024年度 目標値 | 2024年度 実績 | 目標値 との対比 (%) | 評価 | |
|---------------------|--------------------------|-----------------------|-------------------|------------|---------------|--------------|--------------------|------|---|
| | 原単位の分母 (総物質投入量+中間処理量) | | | | | | | | |
| 二酸化炭素 排出量削減 | ・ 都市ガス使用量 | Nm ³ | 314,116 | — | — | 212,661 | — | ○ | |
| | | Nm ³ /t | 10.9 | -10 | 9.81 | 7.70 | -21.5 | | |
| | ・ 電力使用量 | kWh | 870,303 | — | — | 895,982 | — | ○ | |
| | | kWh/t | 32.7 | 0 | 32.70 | 32.46 | -0.7 | | |
| | ・ 軽油等荷役機械燃料 使用量 | ℓ | 9,539 | — | — | 14,564 | — | ○ | |
| | | ℓ/t | 0.556 | -0.5 | 0.553 | 0.528 | -4.6 | | |
| | ・ CO ₂ 排出量 | kg-CO ₂ | 1,121,020 | — | — | 921,132 | — | ○ | |
| | | kg-CO ₂ /t | 38.9 | -2 | 38.10 | 33.4 | -12.4 | | |
| | 水質源の 投入量削減 | ・ 水の使用量 | m ³ | 29,106 | — | — | 20,462 | — | ○ |
| | | | m ³ /t | 1.01 | -20 | 0.81 | 0.74 | -8.5 | |
| 廃棄物 排出量削減 | ・ 廃棄物排出量及び 最終処分量 | t | 87.0 | — | — | 67.0 | — | ○ | |
| | | kg/t | 3.02 | -5 | 2.87 | 2.43 | -15.4 | | |
| リサイクル 量の増大 | ・ 廃食用油再資源化量 | t | 12,341 | +1 | 12,464 | 11,292 | -9.4 | × | |
| 食品廃棄物 の再生利用 等 | ・ 食品廃棄物の再生利用率 実施率 | % | 100 | — | 100 | 100 | 0 | ○ | |
| 化学物質 使用量削減 | ・ 化学物質の使用量 | kg | 438 | — | — | 396 | — | ○ | |
| | | kg/t | 0.0152 | -1 | 0.0150 | 0.0143 | -4.4 | | |

※ 2020年度に使用したCO₂排出係数は2019年度数値、電気:0.442kg-CO₂/kWh、ガス:0.0509kg-CO₂/MJ

※ 電気は東京電力、ガスは東京ガスを使用しています。

※ 軽油等荷役機械燃料は軽油使用料(フォークリフト)と灯油使用量(洗浄機)を合算したものです。

・ 収集運搬部門

| 項目 | 環境経営目標 | 単位 | 2020年度 基準値 | 目標値 (%) | 2024年度 目標値 | 2024年度 実績 | 目標値 との対比 (%) | 評価 |
|----------------|-----------------------|-----------------------|---------------|------------|---------------|--------------|--------------------|----|
| | 原単位の分母 (収集運搬量) | | | | | | | |
| 二酸化炭素 排出量削減 | ・ 軽油、ガソリン自動車 燃料使用量 | ℓ | 329,271 | — | — | 264,641 | — | ○ |
| | | ℓ/t | 17.94 | -14 | 15.43 | 13.79 | -10.7 | |
| | ・ CO ₂ 排出量 | kg-CO ₂ | 860,803 | — | — | 694,430 | — | ○ |
| | | kg-CO ₂ /t | 46.9 | -14 | 40.33 | 36.2 | -10.3 | |

・ 全社目標

| 項目 | 環境経営目標 | 単位 | 2020年度 基準値 | 目標値 (%) | 2024年度 目標値 | 2024年度 実績 | 目標値 との対比 (%) | 評価 |
|---|-----------------------|--------------------|---------------|------------|---------------|--------------|--------------------|----|
| 二酸化炭素 排出量削減 | ・ CO ₂ 排出量 | kg-CO ₂ | 1,935,675 | -3 | 1,877,604 | 1,615,562 | -14.0 | ○ |
| 自らが生産・ 販売・提供する 製品及び サービスに関 する環境配慮 | ・ マニフェスト伝票の 電子化率 | % | 60.0 | — | 60.0 | 65.9 | 5.9 | ○ |

5.2 取組結果の総評

長く続いた「コロナ禍の影響」は薄れてきたが、円安が引き起こしたインフレーションの波が進み、原材料の高騰や、原油相場の高騰によるコスト高に悩まされた。同時に運送業に対する労働条件の法改正による輸送部門の人材確保にも苦慮する状況であった。

また、社会活動の低迷が続いているさなか、激しく変動する製品相場への対応や、廃食用油及び畜産副産物等「原料」の確保に苦勞させられる一年となった。

レンダリング・油脂部門

今年度も引き続き当組合の原料となる牛豚畜産副産物の発生量は、少ない状況であった。大手加工油脂メーカーの原油タンク在庫は減少傾向には至らず、食用牛豚脂の価格は幾度となく下落していったが、年明けから輸出用の油脂相場が上昇傾向に転じ、そのことが懸念材料となり、2月には食用牛豚脂共に価格上げとなった。

搾油後のミートミールは嗜好性を上げるペットフード用の原料として販売され堅調に推移した。

その他、飼料用油脂・工業用油脂については引き続き需要は低調であった。

肥料部門

レンダリング部門より製造される蒸製骨粉・蒸製肉かす粉末・副産動植物質肥料は、組合員の指定配合肥料の原料として引き続き利用するとともに、他社への肥料原料としての販売を行った。肥料価格が高騰及び日本国内の余剰在庫の影響により需要は低調に終わった。

焼却処分されている牛肉骨粉の利活用を促進するため、摂取防止材を混合した配合肥料として製造・販売を行った。

そんな中、健康牛由来の肉骨粉の豚・鶏用飼料への利用再開がなされ、肥料用肉骨粉等についても肥料利用の妨げとなっていた原料加工措置や摂取防止材等の混合を不要とする肥料法の改正が行われる予定である。このことが当組合製造されている蒸製骨粉の需要の減少につながる恐れがあるため、今後の動向を注視していきたい。

リサイクル・収集運搬部門

この数年間、フライオイルの価格高騰が引き金となり、外食・中食産業から排出される廃食用油は、「メニューの変更」や油を長持ちさせるための「ろ過機等の使用」の影響により、排出量は昨年同様、減少傾向のままであった。

再資源化された廃食用油の出荷先に多大なる影響を及ぼすであろう国内SAFの動向は、石油元売り各社が未だ準備段階であることは変わらず、今年度も大きな動きはないように感じられた。昨年同様、一部業者による原料の争奪戦は激しさを増し、数十年前の第一次BDFブームの様相を呈してきた。その時と同様に話のみが先行してしまい、実が伴っていない中で原料の奪い合いは、業界内にとって必ずしも良い結果をもたらさないのではないかと危惧している。

※ 2024年度の結果を下記の通りご報告いたします。

・事業場部門

① 都市ガス使用量の削減 ② 電力使用量の削減

弊社の原単位は、中間処理量(廃食用油)と総物質投入量であり、全て食に関連している。今年度も、日本を取り巻く様々な社会情勢は好転せず、昨年度とほぼ同じ数量となった。原料数量が少ない状況が変らなかったため、自家発(ガスエンジン)の稼働割合が全体電気使用量の28%と少なく、都市ガス使用量は減少傾向となった。買電の電力使用に関しては、今年度から目標値の変更により、ギリギリ目標を達成することができた。

(買電+自家発=総電気使用量は、115,236kWh増大・自家発稼働率は、8%の増大→昨年度対比)

③ 軽油・灯油燃料使用量の削減

フォークリフトの燃料は、BDF(B100)を使用を中止しており、軽油を使用した状態での目標設置をしたため、目標を達成することができた。2024年10月に、BDF施設の改良工事を終了し、リーゼルの協会の「高純度バイオディーゼル燃料リーゼルの登録を取得したが、自社フォークリフトでの実証テストは未実施に終わった。

④ CO₂排出量の削減

貫流ボイラの台数制御装置の修復により、都市ガス使用量が大幅に減少したためCO₂の排出量の目標も大幅に達成することができた。

⑤ 水の使用量の削減

今年度、排水処理施設を確実に運行し、出来上がった再生水(9,950m³)を使用し、目標を大幅に達成することができた。1年間の水使用量のデータ集計が終了したので、新たな目標値を設定する。

⑥ 廃棄物排出量の削減

昨年同様、使用不可なベール缶(廃プラ)については、リサイクルを行うことができた。汚泥の最終処分について、一部を除き再生利用可能な処分場へ搬出した。結果、目標を達成することができた。

⑦ 廃食用油再資源化量の増大

飲食店を取り巻く様々な情勢等により、発生が少なかった昨年と比べると3.4%減少、また一昨年と比べると6.7%も減少しており、今年度も目標を達成することはできなかった。

⑧ 食品廃棄物の再生利用率の向上

対象である肉かす粉末は、ペットフード用として使用及び販売した。昨年同様、再生利用等の実施率は100%となった。

⑨ 化学物質使用量の削減

昨年同様、清掃マニュアルに従い使用量を最小限に抑えた結果、目標を達成することができた。

・収集運搬部門

① 軽油・ガソリン燃料使用量(CO₂排出量)の削減

原単位である収集運搬量は、昨年度と比べ1.0%増大した。燃料使用量及びCO₂排出量は、昨年同様、大型車稼働の減少や車両入替が進み低燃費車が増えたため昨年度比2.2%減となり、目標を達成することができた。

・全社目標

① CO₂排出量(総量)の削減

原料の状況、ユーティリティー設備の整備状況により、事業場のCO₂排出量は減少した。また、トラック燃料のCO₂排出量も昨年と同様に減少することができ、昨年度比5.6%減、目標値に対しては14%減となり、大幅に目標を達成することができた。

② マニフェスト伝票の電子化率をあげる

電子マニフェスト導入の件数が進んだと同時に、紙マニフェストを使用している排出先の解約があったため、電子化率は65.9%となり、目標を達成することができた。

5.3 次期環境経営目標

・事業場部門

| 項目 | 環境経営目標 | 単位 | 2020年度 基準値 | 2025年度 目標値 | 2026年度 目標値 | 2027年度 目標値 |
|-----------------|-----------------------|-----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 二酸化炭素 排出量削減 | ・都市ガス使用量 | Nm ³ /t | 10.9 | -15% | -15% | -15% |
| | ・電力使用量 | kWh/t | 32.7 | 0% | 0% | 0% |
| | ・軽油等荷役機械燃料 使用量 | ℓ/t | 0.556 | -1% | -2% | -3% |
| | ・CO ₂ 排出量 | kg-CO ₂ /t | 38.9 | -5% | -5% | -5% |
| 水質源の 投入量削減 | ・水の使用量 | m ³ /t | 1.01 | -23% | -23% | -23% |
| 廃棄物 排出量削減 | ・廃棄物排出量及び 最終処分量 | kg/t | 3.02 | -5% | -5% | -5% |
| リサイクル量 の増大 | ・廃食用油再資源化量 | t | 11,733 | +1% | +1% | +1% |
| 食品廃棄物 の再生利用等 | ・食品循環資源の 再生利用等の実施率 | % | 100 | 100% | 100% | 100% |
| 化学物質 使用量削減 | ・化学物質の使用量 | kg/t | 0.0152 | -1% | -1% | -1% |

① 基準値は、2020年度の目標値とする。(CO₂排出係数を2019年度数値、電気:0.442kg-CO₂/kWh、ガス:0.0509kg-CO₂/MJで再計算)

※ 電気は東京電力、ガスは東京ガスを使用しています。

② 目標値は基準値に対するのパーセンテージとする。

③ 廃食用油再資源化量の単位は、総量実績、その他の項目は、原単位[総量実績/(総物質投入量+中間処理量)]とする。

※ 2020年度・原単位分母は、28,818tです。

④ 電気使用量・軽油等荷役機械燃料使用量・廃食用油再資源化量の基準値は、2023年度の実績値とする。

※ 2023年度・原単位分母は、27,657tです。

・収集運搬部門

| 項目 | 環境経営目標 | 単位 | 2020年度 基準値 | 2025年度 目標値 | 2026年度 目標値 | 2027年度 目標値 |
|----------------|----------------------|-----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 二酸化炭素 排出量削減 | ・軽油、ガソリン自動車 燃料使用量 | ℓ/t | 17.94 | -15% | -16% | -17% |
| | ・CO ₂ 排出量 | kg-CO ₂ /t | 46.9 | -15% | -16% | -17% |

① 基準値は、2020年度の目標値とする。

② 目標値は基準値に対するのパーセンテージとする。

③ 二酸化炭素排出削減の単位は、原単位(総量実績/収集運搬量)とする。

※ 2020年度・原単位分母は、18,354tです。

・全社目標

| 項目 | 環境経営目標 | 単位 | 2020年度 基準値 | 2025年度 目標値 | 2026年度 目標値 | 2027年度 目標値 |
|-------------------------------|----------------------|--------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 二酸化炭素 排出量削減 | ・CO ₂ 排出量 | kg-CO ₂ | 1,935,675 | -5% | -5% | -5% |
| 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境配慮 | ・マニフェスト伝票の電子化率 | % | 60 | 61% | 62% | 63% |

① 基準値は、2020年度の目標値とする。(CO₂排出係数を2019年度数値、電気:0.442kg-CO₂/kWh、ガス:0.0509kg-CO₂/MJで再計算)

※ 電気は東京電力、ガスは東京ガスを使用しています。

② 目標値は基準値に対するのパーセンテージとする。

③ 二酸化炭素排出削減の単位は、総量実績値とする。

④ 伝票の電子化率は、パーセンテージとする。

5.4 次年度の取組内容

(対象期間:2025年4月1日～2026年3月31日)

・事業場部門

| 環境経営目標 | 具体的な行動計画 |
|-------------------------|---|
| ・都市ガス使用量の削減 | ・ボイラー施設のメンテナンス(特に水質管理)を定期的実施しロスのないようにする〈通年計画〉 |
| ・電力使用量の削減 | ・機械設備のメンテナンスを定期的実施し、運転時間のロスのないようにする〈通年計画〉 |
| | ・照明は、休憩時・不在時は消灯する〈通年計画〉 |
| | ・電気器具の更新時、省エネタイプとする(工場内照明は可能な限りLEDに変更する) |
| | ・事務所内の空調温度設定(冷房:26℃、暖房:21℃)〈通年計画〉 |
| | ・デマンド計にて消費電力を把握する(電気契約の見直し)〈通年計画〉 |
| ・自家発電設備(ガスエンジン)の確実な運用 | |
| ・軽油等荷役機械燃料使用量の削減 | ・BDF燃料の活用 |
| | ・ハイブリット車の導入を検討 |
| ・CO ₂ 排出量の削減 | ・エコドライブの推進(アイドリングストップ・急発進、急加速禁止)〈通年計画〉 |
| | ・上記により |
| ・水の使用量の削減 | ・ユーティリティ設備(ボイラー・脱臭設備等)の確実な運用 |
| | ・機械設備のメンテナンスにより、漏水等ない様に努める〈通年計画〉 |
| | ・排水処理施設を効率よく運転し再生水を作り、使用水を削減する〈通年計画〉 |
| | ・流し台・トイレ等では、水をこまめに止める〈通年計画〉 |
| ・廃棄物排出量及び最終処分量の削減 | ・給水・節水設備の確実な運用 |
| | ・コピー用紙の両面使用〈通年計画〉 |
| | ・会議のペーパーレス化〈通年計画〉 |
| | ・不要FAXを印字しない〈通年計画〉 |
| | ・物品購入時の包装の削減〈通年計画〉 |
| ・廃食用油再資源化量の増大 | ・物品購入時は極力グリーン購入品を選定する〈通年計画〉 |
| | ・ゴミを分別しリサイクルを推進する〈通年計画〉 |
| | ・汚泥の処分について、再資源化ができる処分先への搬入を継続する。〈通年計画〉 |
| | ・施設公開や排出事業者へのリサイクル提案により取扱量を増大させる〈通年計画〉 |
| ・食品廃棄物の再生利用等の実施率向上 | ・肥料、ペットフード原料の品質向上。販売経路の促進〈通年計画〉 |
| ・化学物質使用量の削減 | ・苛性ソーダの使用の徹底〈通年計画〉 |

・収集運搬部門

| 環境経営目標 | 行動計画(具体的取組) |
|-------------------------|--|
| ・軽油、ガソリン自動車燃料使用量の削減 | ・エコドライブの推進(アイドリングストップ・急発進、急加速禁止)〈通年計画〉 |
| | ・ドライブレコーダーの検証〈通年計画〉 |
| | ・走行日報による燃費確認〈通年計画〉 |
| | ・効率的走行ルートの見直し〈通年計画〉 |
| ・CO ₂ 排出量の削減 | ・BDF燃料の活用 |
| | ・低燃費・低公害車の導入 |
| | ・森林クレジットによるカーボンオフセットを検討する |

・全社目標

| 環境経営目標 | 行動計画(具体的取組) |
|-----------------------------|---|
| ・CO ₂ 排出量の削減(総量) | ・上記行動計画により削減を目指す |
| ・マニフェスト伝票の電子化率増大 | ・排出事業者への提案により電子マニフェストの使用率を高める〈通年計画〉 ・ハンディ端末による運行管理システム(自社ASPマニフェストシステム)の運用 |

6. 環境関連法規への違反、訴訟の有無

1. 当社に係る環境関連法規は、下記の通りです。

- ・ 大気汚染防止法
- ・ 公害防止組織法
- ・ 道路交通法
- ・ 自動車NOx・PM法
- ・ オフロード法
- ・ フロン排出抑制法
- ・ 下水道法
- ・ 水質汚濁防止法
- ・ 騒音規制法
- ・ 振動規制法
- ・ 悪臭防止法
- ・ 廃棄物処理法
- ・ 食品リサイクル法
- ・ 自動車リサイクル法
- ・ 家電リサイクル法
- ・ 毒劇法
- ・ 労働安全衛生法
- ・ 消防法
- ・ 省エネ法
- ・ 温対法
- ・ 東京都環境確保条例

2. 2025年3月27日に遵守評価をした結果、環境関連法規の違反はありません。また、関係当局からの違反等の指摘、訴訟は過去3年間ありません。

7. 食品廃棄物等の発生量及び実績値に関する内訳

| 食 品 廃 棄 物 等 | | 2022年4月 から 2023年3月 | 2023年4月 から 2024年3月 | 2024年4月 から 2025年3月 |
|--------------|-----|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| ① 発 生 量 | (t) | 716.6 | 718.6 | 691.1 |
| ② 発 生 抑 制 量 | (t) | -60.4 | -94.7 | -49.9 |
| ③ 再 生 利 用 量 | (t) | 716.6 | 718.6 | 691.1 |
| ④ 熱 回 収 量 | (t) | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ⑤ 減 量 量 | (t) | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ⑥ 再生利用等以外の量 | (t) | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ⑦ 廃棄物としての処分量 | (t) | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ※ 再生利用等の実施率 | (%) | 100% | 100% | 100% |

1. 当社から発生する食品廃棄物は、食用油脂製造時の搾油粕(ミートミール)です。
2. 発生したミートミールは、ペットフード用の原料として100%出荷しています。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

環境経営目標の取組状況(2024年4月～2025年3月の活動結果が対象)

事業場部門

| 環境経営目標項目 | 評価 |
|-------------------------|---|
| ・都市ガス使用量の削減 | 2024年度に都市ガスは目標値、電力は基準値・目標値の変更をおこなった。都市ガスは数値の乖離があるため次年度に新たな目標値の設定を行う。 |
| ・電力使用量の削減 | |
| ・軽油等燃料使用の削減 | BDF製造設備の「JIS規格品」は外部へ販売した。「高純度品」は自社でのフォークリフトへ給油し実証テストを行ないたい。 |
| ・CO ₂ 排出量の削減 | 上記3項目の燃料使用の結果がCO ₂ 排出量に関係おり、都市ガスと共に次年度、新たな目標値の設定を行う。 |
| ・水の使用量の削減 | 施設の維持管理を行い、再生水を利用することにより水の使用量削減に努めた。大幅に削減となっているので、目標値の再設定を行う。 |
| ・廃棄物排出量及び最終処分量の削減 | 昨年同様、汚泥処分については、再資源化可能な処分先への搬入を行ったため、目標達成となった。引き続き、汚泥・廃プラの処分に関し、委託先との情報収集に努めること。 |
| ・食品廃棄物の再生利用等実施率の向上 | ペットフード原料用として、100%再生利用している。今後も施設の維持管理を行い、製品の品質向上に努めたい。 |
| ・廃食用油再資源化量の増大 | 飲食店におけるコロナ対策の規制が緩和されたが、昨年度同様、食用油(製品価格)の高騰による影響により再資源化量は伸び悩んだ。 |
| ・化学物質使用量の削減 | 「清掃マニュアル」の運用が適切に行われ、目標を達成することができた。 |

収集運搬部門

| 環境経営目標項目 | 評価 |
|-------------------------|--|
| ・軽油、ガソリン燃料使用の削減 | 輸送の効率化や車種による稼働の状況により、目標を達成することができた。大幅に削減となっているので、目標値の再設定を行う。 2025年度以降、BDF(B5)の使用を検討したい。 |
| ・CO ₂ 排出量の削減 | |

全社目標

| 環境経営目標項目 | 評価 |
|--------------------------------|--|
| ・CO ₂ 排出量の削減(総量実績値) | 工場部門・収集運搬部門を合算した総量実績値の目標は達成した。大幅に削減となっているので、目標値の再設定を行う。 |
| ・伝票の電子化率を上げる | 自社ASPマニフェストシステムの運用とGPSを使用した運行管理を継続している。自社排出非対応分についても、数値には反映されないが、電子化を進めたい。 |

その他の取組状況

| 見直し項目 | 次年度への提案 |
|-------------|--------------------------------------|
| ・環境関連法規遵守状況 | 今後も関連法規の順守に努めること。 |
| ・利害関係者からの情報 | 引き続き苦情等の無いよう細心の注意を払い、発生時には早急に対処すること。 |

理事長見直し結果

| 見直し項目 | 理事長指示事項(取組結果) |
|--------------------|---------------------------------------|
| ・環境経営方針 | 今年度の見直しはなかった。 |
| ・組織構成及び実施体制 | 今年度の変更はなかった。 |
| ・環境経営目標 | 2024年度の目標値、実績値を確認した。 |
| ・環境関連法規 | 特に大きな改正等はなかった。 |
| ・その他事項 | BDF設備の改修は終了し、高純度バイオディーゼルを製品化することができた。 |
| ・利害関係者からの情報 | 情報収集(報告)、分析、判断を早急かつ正確に行うことが重要である。 |
| ・EMSの見直し変更の必要性について | 長野支店含め、更新審査を行った。(長野支店の現地審査を行った。) |